

県産材で仮設住宅

今治の建築会社など開発

スペースプロ級建築士事務所(神戸市、岡田俊彦代表)と建築工房たかとり(今治市宮窪町宮窪、高取隆宜社長)などはこのほど、県産のスキヤヒノキを使った大規模災害時の仮設住宅「愛媛モクテナー」を開発した。耐用年数が長くトラックで運搬が可能なため、復興住宅にも転用できる。

岡田代表(54)は「移設して再利用すれば復興住宅の建設戸数を減らせる。復興事業費の抑制が期待できる」と話している。

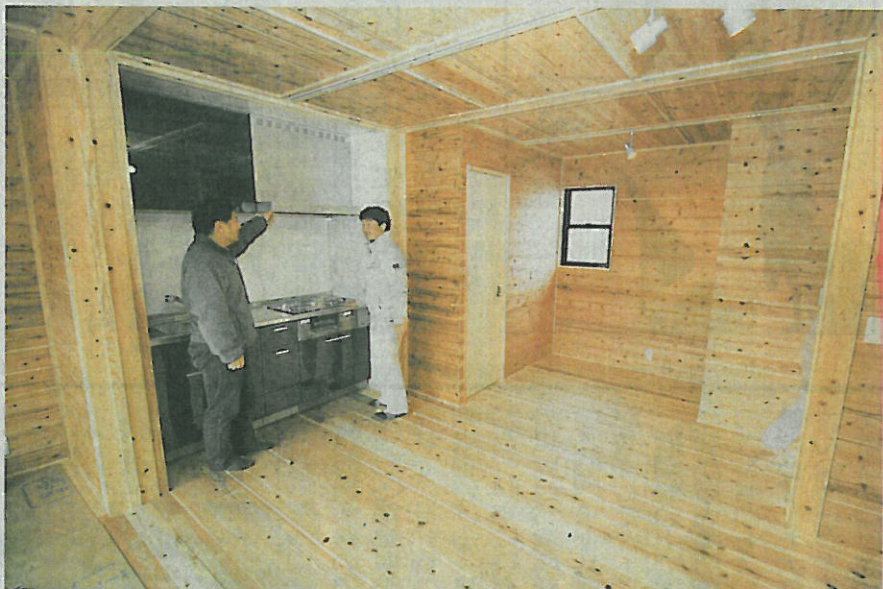
岡田代表によると、現在の仮設住宅の建築費は1棟約230万円。2年間の使用が前提で、被災者が復興

耐用年数以上 復興用にも転用可

住宅などに転居した後は取り壊される。内閣府の防災対策推進検討会議は最終報告で、災害時に応急的に建設された住宅の有効活用策の検討を提言している。

愛媛モクテナーの耐用年数は20年以上で、トイレやユニットバス、キッチンなどを備えたベースモデル(30平方メートル)は400万円台から。3分割して4トントラックで運べるため、仮設住宅としての役目が終わった後も住居や事務所に再利用でき、住居スペースの増設も可能。県の「新たな県産材利用促進事業」の補助金を使い開発した。

量産化技術の確立や4人で約2週間かかる工期短縮が今後の課題。岡田代表らは当面、行政に公園管理事務所などとしての利用を働



仮設住宅「愛媛モクテナー」の内部＝7日午前、今治市吉海町仁江

高取社長(37)は「高級車1台分の値段で買える別荘」として、災害時以外での活用にも期待する。

瀬戸内しまなみ海道を訪れるサイクリストにはピターも多いが、大部分は

島を一気に駆け抜ける。海道沿線の島々は過疎化の進行で休耕地が増えており、高取社長は「休耕地に建て、サイクリングの拠点にする。例えば地域活性化につながるのではないかと話している。(高橋正剛)



作品と

民記念館

た企画展「吉永邦治と坂村真民の世界」が7日、同町大南の坂村真民記念館で始まった。5月31日まで。

の「コロポによる飛天の魅力を感じてもらいたい」とあいさつ。会場には、優美な笑みと色彩をみせる吉永さんな

感動

「姫」公演を招待

東温市見奈良の坊っちゃん劇場であり、400人余りが歴史ロマンあふれる劇を満喫した。「鶴姫」は2009

社説の書き方 小論文にも

松山 高校生120人こつ学ぶ



新聞を教材に小論文の書き方のこつを伝授した前論説委員長の篠浦公二さん(右)＝7日午前、松山市樽味3丁目

新聞の社説などから文章の基礎を学んでもらう講座「新聞で学ぶ」が、2年生約120人に小論文の書き方のこつを伝授した。

年初演で、14年11月から再演中。戦乱の時代を生きた大山祇神社(今治市)宮司の娘鶴姫が「憎しみの連鎖を断ち切り平和の海を取り戻したい」と奮闘する。貸し切り公演は、愛媛新聞社が14年2月の「げんない」に引き続き開催。ジュニアエイブメ新聞「スマイルノビ」に「美しいエメラルド」に加え今年には「ニア面」「コンパス」でも募集し、700通を超える応募があった。公演後、鶴姫の親友カモメ役の吉田葵さん、兄大祝安舎役の村中弘和さん、島娘役の駒野谷咲子さんがトークショー。緑色に塗られたステージの床について「美しいエメラル